

2018 年度の総括

2018 年度は、前年度に引き続き財政状況の立て直しに向けて尽力してまいりました。そのための事業遂行において、本協議会の目的との整合性を念頭に置きながら、事業の取捨選択、新規事業への取り組みについて模索してきました。本来の団体としての目的である、NGO/NPOの連携促進、構築を推し進めるに相応しい運営並びに組織に対する抜本的な改革を推進いたしました。

事業においては、若者人材育成事業「アジア留学生によるインターンシップ事業」、多文化共生事業「外国語による読み聞かせ会」を実施し、多数の海外からの留学生・労働者やインバウンドで来日する現状に即した事業を開催いたしました。また、本協議会に相応しい助成金事業を受託し、組織基盤の整備に注力しました。

また、本協議会が長年にわたって事務局機能を担ってきた「ワン・ワールド・フェスティバル」(以下OWF)も、第 26 回目を新しい実行委員会メンバー、ボランティア、事務局と三位一体での協力体制を取り、新たな後援・協力団体、協賛企業にご賛同ご協力頂き、所定の成果を出すことができました。そのOWFの場において、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」(SDGs)を大きなテーマに掲げ、様々な行政・団体・企業・NGO・NPO・市民の皆さまへ今後につなげるためのプログラム提供を行い、よりインパクトのあるイベントとなりました。

長年にわたってNGO/NPO 界を牽引する役割を担いつつ関西における国際交流団体が結集して運営をしてその発展に貢献してきたと自負する本協議会ではありますが、設立当初にあった存在意義の揺らぎや昨今のNGO/NPOを取り巻く環境の変化を背景に、当初の志との間に大きな意識の開きが生じつつあります。これらの点を真摯に踏まえつつ、本来の団体としての目的をより明確にし、今後の協議会運営に反映してまいります。

1.NGO／NPO間の連携促進事業(会員向け事業)

会員数＝正会員 54 団体、賛助会員(団体)0 団体、賛助会員(個人)4 名(2019 年3月 31 日現在) ＊団体名は本報告書末に一覧表を掲載

【2018 年度を以って退会する団体】

大阪ガス国際交流財団、関西韓国 YMCA、とんだばやし国際交流協会、寝屋川市国際交流協会、ヒランガニ・ンゴタアンド

(1)会員サービスの充実

〔 内 容 〕 会員間の情報交換、経験の共有を図ると共に、会員それぞれが有する専門性や経験・情報・人材を活かせるように連携や協働の促進に努めました。

①会員名簿の発行

発行部数 100 部

配 布 先 会員団体

②助成金や賞などへの応募推奨と推薦

(2)会員への情報提供と会員活動への広報協力

〔 内 容 〕 ①会員への情報提供

会員からの問い合わせについて、各種助成金情報や会員団体による主催事業情報、NPO支援に関する情報発信を行いました。

②ホームページ・SNSによる情報発信

・実施方法 ホームページ掲示板からイベント、求人情報、助成金公募などの情報を掲載しました。

ホームページの内容を Facebook からシェアし発信をしました。



(3)会員と企業や団体の連携による事業

会員向け講演会の開催

〔 内 容 〕 大阪大学大学院 福井康太教授に講演をいただきました。

〔 日 時 〕 2018 年 6 月 15 日(金) 講演会 18:40～20:00

〔 場 所 〕 難波市民学習センター 第4研修室

(大阪市浪速区湊町 1 丁目 4 番 1 号 OCATビル 4 階)

〔 テ ー マ 〕 「日本はいつから総無責任体制になったのか―戦時体制と東大説法」

〔 登 壇 者 〕 福井康太氏(大阪大学大学院 法学研究科教授)

〔 司 会 者 〕 新居 誠一郎氏((特活)関西国際交流団体協議会 事務局長)

〔 参加者数 〕 30 名



2.NGO／NPOと多分野の団体、他機関との連携促進事業

(1)第26 回ワン・ワールド・フェスティバル

昨年同様実行委員会形式で第 26 回ワン・ワールド・フェスティバルを開催し、本協議会が事務局機能を担いました。場所は前 4 回と同じ扇町地区で行いました。「みんなのキッチン」会場が公園事務所の協力を頂き、前回までの扇町公園グランドから公園入口通路の使用許可を頂き、開催することにより、より多くの来場者に参加頂けました。

また、来場者がより楽しく参加できるプログラムとして、民族的なスポーツに体験できる「みんなでスポーツ」、難民キャンプテント出展、キッズゲルニカワークショップに取り組みました。

テーマとしては、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」(SDGs)をメインに掲げ、新たに関西SDGsプラットフォームなどの後援も得て、新たな展開を図りました。決算は 820 万円。

分担金が減額となりましたが、企業協賛が昨年より 77 万増額となりました。運営協力として吉本興業など多くの企業・団体に様々な協力を頂き、無事終了いたしました。

〔 目 的 〕

- ① 地球規模の課題や地域社会の課題への市民の意識とライフスタイルの変革の促進
- ② 課題解決への市民の参加促進
- ③ 開発教育の促進
- ④ ボランティア活動の促進
- ⑤ 異(多)文化理解の促進
- ⑥ 環境問題への意識の向上と活動の促進
- ⑦ NGO／NPO間の連携・協働の促進
- ⑧ NGO／NPOと ODA 実施機関との連携
- ⑨ NGO／NPOと教育機関、行政機関、企業・経済団体との連携・協働
- ⑩ NGO／NPOの力量と意識の向上
- ⑪ ネットワークの促進

〔 日 時 〕 2019 年2月2日、2月3日

〔 会 場 〕 カンテレ扇町スクエア(1Fステージ)、北区民センター、扇町公園

〔 来場数 〕 約 25,000 名

〔 参加団体 〕 128 団体

〔 実施方法 〕 実行委員会形式

〔 協力団体 〕 外務省

〔 共催団体 〕 (一財)大阪市コミュニティ協会 北区支部協議会

〔 協賛団体 〕

(学)エール学園、(一社)大阪青年会議所、大阪府生活協同組合連合会、(一社)大阪労働者福祉協議会、岡安商事(株)、金井重要工業(株)、木下製薬(株)、近畿労働金庫、(株)行成、(独)国際協力機構 関西センター、サラヤ(株)、島野珈琲(株)、(宗)真如苑、第一ゼミナール、ダイサン(株)、大日本除虫菊(株)、(公財)大遊協国際交流・援助・研究協会、(株)てりとりー、新居合同税理士事務所、(株)ニシハラ印刷、(一財)日本国際協力センター、日本労働組合総連合会大阪府連合会、(株)一二三工業所、(株)ベネシード、(株)マックスコーポレーション、三木秀夫法律事務所、(株)ムーラン、(株)リゾートライフ

〔 運営協力 〕

(公財)京都市国際交流協会、(株)インクリエイト、(株)ディーボックス、(株)大塚商会、吉本興業(株)、東豊配送(株)、(公社)大阪府看護協会、大手前大学国際看護学部、関西ラグビーフットボール協会、日本タグフットボール協会、太極拳池田愛好会、LIU武術協会、中華人民共和国駐大阪総領事館、近畿クリケット協会、在大阪・神戸インド総領事館

〔 後援団体 〕

総務省、文部科学省、経済産業省、環境省、大阪府、大阪市、堺市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪府PTA協議会、大阪市PTA協議会、堺市PTA協議会、関西領事団、大阪商工会議所、(公社)関西経済連合会、(一社)関西経済同友会、日本労働組合総連合会大阪府連合会、大阪弁護士会、(一財)自治体国際化協会、(公財)ユネスコ・アジア文化センター、(公財)関西・大阪 21 世紀協会、関西SDGsプラットフォーム、(公財)大学コンソーシアム京都、(特活)大学コンソーシアム大阪、(公社)日本ユネスコ協会連盟、(公財)大阪観光局、(公社)日本WHO協会、(認活)大阪NPOセンター、北区商店会総連合会、天神橋筋商店会、天神橋三丁目商店街振興組合、ミナミまち育てネットワーク



〔 内 容 〕

① 実行委員会の結成(構成団体)

(公社)アジア協会アジア友の会、(公社)アムネスティ・インターナショナル日本・関西連絡会、(公財)オイスカ 関西支部、(一社)大阪青年会議所、(特活)大阪トルコ日本協会、(認活)大阪 NPO センター、(公財)大阪 YMCA、(独)国際協力機構 関西センタ

一、青年海外協力隊大阪府 OBOG 会、(一社)南太平洋協会、みんなでつくる学校と
れぶりんか、(特活)みんなの未来かいたく団、(特活)関西国際交流団体協議会
(全 13 団体)

② 実行委員会の開催

2018年5月30日、6月27日、7月18日、8月8日、9月19日、10月17日、11月14
日、12月11日、2019年1月23日、3月18日(全 10 回)

③ ボランティアの参加

当日ボランティア募集…2018 年10月から募集しました。

参加者 120 名(2日間延べ人数)

④ 出展団体募集 2018年9月から募集

⑤ 実行委員による企画と公募企画でプログラム立案、計34プログラム実施

⑥ NGO/NPO、ODA機関、国連機関、教育機関、公館、企業等85団体ブース出展

⑦ 外務省写真展

⑧ 国際交流・協力に関する各種シンポジウムやパネルディスカッション

⑨ 開発教育・国際理解教育促進のためのワークショップや実践事例紹介

⑩ 環境への取り組みや異文化理解のための体験プログラム

⑪ 音楽、舞踊、食を通した多様な文化の紹介と体験

⑫ 映像やパフォーマンス等を通した国際文化交流のプログラム

⑬ 扇町公園で「みんなのキッチン」、「みんなでスポーツ」、難民キャンプテント、ワールドカ
ップ・世界文化遺産登録推進PRブース、キッズゲルニカワークショップ、企業テントを実
施

(2) 関係諸機関とのネットワーク構築事業

多分野のNGO/NPO、行政機関、企業、教育機関等とテーマを共有し、顔の見えるネット
ワークを構築して、連携事業に取り組むことを模索しました。

(3) 門真市イメージキャラクター活動 (業務委託)

〔 内 容 〕 門真市内を主たる活動場所とし、イメージキャラクターとして出演。2018 年 3
月末までの活動予定であったが、行政からの要請に伴い、活動を 1 ヶ月延長し、2018 年 4
月末日まで行いました。

〔 期 間 〕 2018 年 4 月1日～2018 年 4 月 30 日



3.国際交流・国際協力・市民活動に関する情報収集と提供事業

(1)NGO／NPOに関する情報の収集・提供事業

〔 目 的 〕 国際交流・国際協力に関する多様な情報収集と提供を行う。

〔 内 容 〕 関係機関からの情報を整理し、ホームページ上での情報発信による提供を実施しました。

・提供情報の分類項目

- ①政府機関、国際機関等の情報
- ②会員および関西を中心に全国の国際交流・国際協力団体、NPOの情報
- ③会員団体による市民講座・国際理解教育への講師情報
- ④ボランティア・スタディツアー情報
- ⑤各種市民活動情報

(2)人材育成事業

・アジア留学生インターンシップ受け入れ事業

〔 目 的 〕

持続可能な社会の構築を目指し、NPO独自の力を活かして将来世代の人材育成を図った。留学生に日本のNPO団体の事業内容を伝え、日本国内における国際協力団体の交流場とも言えるワン・ワールド・フェスティバルの企画に携わる事により、自国NPO事業モデルの確立、共生社会に向けて、国際協力団体、国際機関、行政機関、教育機関等のネットワーク構築の参考として支援することを目的とした。

〔 期 間 〕 2018年10月～2018年12月

〔 対 象 〕 中国留学生1名

〔 内 容 〕 文化の違いを理解している上で、ビジネスマナーに関する基本知識を身につけ、国際交流団体ネットワークにおける当団体の役割を理解し、留学生としての目線を生かして、本団体及び各会員団体の事業活動を調査。読み聞かせ会というイベントの企画運営及び実施を通して、国際理解と貢献のかけ橋になって頂くための現場体験をしました。

4.開発教育・市民意識啓発と活動への参加促進事業

5.NGO／NPOの基盤強化事業

(1)多文化共生事業

外国語による読み聞かせ会

〔 目 的 〕

同じ絵本を日本語と外国語で読み聞かせを行うことにより、日本語以外の言語で聞くと印象が変わり、想像力や感受性が高まる。また、外国の言葉に触れることで、多文化共生の意識を醸成することを目的とした。

〔 期 間 〕 10月6日、10月20日、11月4日、12月8日、2月16日、2月23日

計6回

〔 対 象 〕 大阪市内未就学児～小学生3年生

〔 内 容 〕 中国語、英語による絵本の読み聞かせと、塗り絵・おもちゃの制作等のワークショップを行った。中国語・英語はアジア留学生によるネイティブ発音にて行い、子どもたちへの意識醸成を図りました。

(3)門真市立市民公益活動支援センター運営事業（指定管理事業）

門真支援事業

門真市立市民公益活動支援センター2016年度から2018年度までの指定管理者として、NPO法人みんなの未来開拓団とともに立ち上げた「みんなのかどま協議会」の一員として、共同運営を行い、2019年3月末日にて終了いたしました。

6.調査研究・提言事業

審議会、委員会への参加

国際交流・協力の連合体／中間支援組織としての経験や情報、及びNPOセクターの視点を活かすと共に当該関係者の実状や声を施策に反映できるように努め、委員会等で得られた情報を事業に活用しました。